

された〔自明治四十四年
至大正元年 庶務雜書類 庶務掛〕。

なお、左記の文書によれば、この火災でグラスゴーの学校生徒の
図画類も焼失したことがわかる。

英國グラスゴー生徒成績焼失ニ付

文部省へ通知案〔明治四十四年三月三日立案〕

兼テ本校ニ於テ参考ノタメ借用致居候英國グラスゴー学校生徒圖
畫成績別紙目錄之品先般本校火災之際取出スノ違ナク遂ニ焼失致
候間可然御取計相成度此段得貴意候也

年月日 学校長

文部省文書課長宛

目錄

一 グラスゴー出品図画其他 拾四枚

一同 設計図其他 四点

一同 図画成績 八冊

以上

〔明治四十四年ヨリ
同四十五年マデ 文部省往復 庶務掛〕

② 川端玉章古稀記念展覧會、祝賀會

明治四十四年二月二十六日から十日間、日本美術協会列品館で本
校教授、帝室技芸員川端玉章の古稀を記念する作品展（天真会主催）
が開かれた。出品申込みが七百点にも及んだので順次陳列替えをし
て展示した。御物の四季山水図、帝室博物館所蔵の甌具売図、九鬼
隆一所蔵の近江八景図をはじめ、過去の作風を概ね網羅し、その変

遷を窺うに足る展覧會であつたという。三月五日には上野精養軒で
参会者千余名による古稀祝賀會が開かれ、本校校長正木直彦および
九鬼隆一の祝辞、手品、下谷芸妓の手踊り、伊井一座の喜劇女天下
などがあり、来会者に玉章の経歴、逸事、画論、門人たちの談話を
載せた小冊子『川端玉章』と記念帛紗が頒たれた。

③ 第二回東京勸業博覧會

明治四十四年三月二十日より六月十日まで上野公園不忍池畔勸業
協會で第二回東京勸業博覧會が開催されたが今回は本校では特に協
力体制はとらず、教官、生徒及び卒業生が個々に出品しただけであ
つた。

④ 図画師範科の參觀旅行

図画師範科の職員、生徒、卒業生の組織である錦巷会の機関誌
『錦巷』創刊号（明治四十四年四月）に、「參觀旅行」と題する記事が
あり、白浜徴引率による同科三年生の群馬、長野、山梨三県下諸学
校參觀旅行の詳細が報告されている。同科の生徒は卒業を前にして
このような実地見学を行なっていた様子である。報告書は日程、報
告分担者名、高崎市教育品展覧會・高崎高等女学校・長野県師範学
校図画科および手工科・長野高等女学校・松本高等女学校・松本中
学校・開智小学校・松本女子師範学校および附属小学校・甲府師範
学校の見学報告から成るが、ここには日程と報告分担者名のみを転
載する。

明治四十三年十一月七日より同十一日に至る、日數五日間、上野出發、高崎、長野、松本、甲府を経て飯田町歸着、行程三百二十哩。

午前六時十分

上野發

午前八時五十八分

高崎着

教育品展覽會、高等女學校參觀。

午後二時十八分

高崎發

午後七時四十九分

長野着

長野市、鴻靜館宿泊。

十一月八日(晴)

長野縣師範學校、中學校、高等女學校、城山小學校參觀。

長野市、鴻靜館宿泊。

十一月九日(曇)

午前六時三十五分

長野發

午前九時十五分

松本着

高等女學校、中學校、松本(開智)小學校參觀。

十一月十日(雨)

女子師範學校、同附屬小學校參觀。

午後三時

松本發

午後九時

甲府着

甲府、米倉旅館宿泊。

十一月十日(曇)

男女師範學校參觀。

午後四時五十五分

甲府發

午後十時四十分

飯田町着

解散。

分擔

(教室係)

中津 安彦君 飯田 文一君

(教具係)

湧口 滿君 佐藤七之助君

(教材係)

中根 孝治君 野口 涉君 山岸 貞一君

(成績品係)

安藤 義茂君 堀 秋成君

(教授の實察)

田中 實君 今井伴次郎君 筑瀬由太郎君

(美感的施設)

岡登 貞治君 山本 四郎君

(スケッチ係)

中島英二郎君 秋山 任君

(日誌係)

吉田 久君

⑤ 平子鐸嶺死去

明治四十四年五月十日、平子鐸嶺(本名尚)が三十五歳の若さで病死し、非常に惜しまれた。鐸嶺は明治十年三重県津市に生まれ、同二十九年本校絵画科(日本画)第二年終了後西洋画科に転入し、同三十四年に卒業した。翌三十五年金港堂に就職。三十六年東京帝室博物館嘱託兼内務省嘱託となり、一時『馬酔木』の編集員ともなった。三十九年哲学館講師就任。四十年内務省古社寺保存計画調査嘱託。四十三年古社寺保存会委員。本校在校中から『仏教』『東京美術学校校友会雑誌』『新仏教』『新仏教』等に論文を寄稿し、卒業後は『馬酔木』『東洋哲学』『新仏教』『国華』『考古会』『太陽』『歴史地理』『建築雑誌』『史学界』『史学雑誌』『史学雑誌』『宗教界』『学燈』『美